

性成熟期乳癌患者におけるタモキシフェンの 卵巣過剰刺激作用の実態調査に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：平成 30 年 1 月 29 日 ～ 平成 32 年 3 月 31 日

〔研究課題〕

性成熟期乳癌患者におけるタモキシフェンの卵巣過剰刺激作用の実態調査

〔研究目的〕

性成熟期乳癌患者さんの子宮、卵巣へ及ぼすタモキシフェンの影響について調査することが目的です。

〔研究意義〕

閉経前乳癌に対して使われるタモキシフェンが卵巣や子宮に与える影響について調べます。タモキシフェンの開始からどの程度の期間でホルモ的な変化が起きるのか、それに伴って卵巣や子宮の形、ホルモン動態に変化が認められるかを調べます。最終的には、タモキシフェンの妊孕性や子宮内膜の腫瘍化への影響を調べることで性成熟期乳癌の治療に役立てることが今回の研究意義です。

〔対象・研究方法〕 当院で過去に診療を受けた性成熟期乳癌患者さんで、タモキシフェンを使った方が対象です。過去の診療録から、子宮・卵巣の様子やエストロゲンなどのホルモン値を調べて、主たる研究機関で統計的に解析いたします。

〔研究機関名〕 帝京大学(共同研究機関)、金沢大学(主たる研究機関)、ほか

〔個人情報の取り扱い〕

患者さんの名前やカルテ番号等の個人情報が特定される情報は除かれています。主たる研究機関で多施設からの調査結果をまとめる際には施設名も匿名化され、全体として集計結果をまとめるため、個人の特定はできない状態となります。

対象となる患者さんで、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：綾部琢哉 産婦人科学講座主任教授

住所： TEL： 03-3964-1211（代表）〔内線 32616 〕